

## 授業改善推進プラン <社 会 科>

### ( 社 会 ) 科における令和7年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、地図や視覚的資料、デジタル教材を活用することにより、生徒の授業内容への関心を高めることができた。
- ・「知識・技能」については、地理においては地図帳や視覚的資料・デジタル教材を活用し、地図を見ながら重要事項の意味と場所を学習する授業を展開したことや、歴史的資料とデジタル教材とさらに地図帳などの地理的資料をあわせて併用して歴史的事象のおおまかな流れをまとめることに取り組んだことで、「知識・技能」を高めることができた。

<課題>

- ・「思考・判断・表現」については、白地図や様々な資料を活用し、諸地域の特色や産業の特色を多角的・多面的に捉えたり、各時代や歴史的事象のおおまかな流れを捉え、自分の言葉でまとめたりしたが、思考力や判断力を高めることができなかった。

### ( 社 会 ) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○社会科全体の平均正答率は、第1学年では目標値より5.2ポイント下回っており、第2学年は3.8ポイント下回っている。そして、第3学年では4.4ポイント下回るという結果が出ている。</p> <p>○地理・公民的分野において、第1学年は「日本の政治」「日本国憲法」「世界の中の日本」では目標値を下回っている。第2学年は「世界各地の人々の生活と環境」で目標値を上回っているが、「世界の姿」「日本の姿」「世界の諸地域」では目標値を下回っている。第3学年では「日本の地域的特色と地域区分」「日本の諸地域」「地域調査の手法」で目標値を下回っている。</p> <p>○歴史的分野において、第1学年は「縄文時代～平安時代」「鎌倉時代、室町時代」「安土桃山時代、江戸時代」「明治時代～昭和時代」では目標値を下回っている。第2学年は「飛鳥時代～平安時代」は目標を上回っているが、「縄文時代～古墳時代」「中世の日本」では目標を下回っている。第3学年では「ヨーロッパとの出会いと全国統一」「江戸時代」「明治時代」で目標値を下回っている。</p>
観点別結果の分析	<p>○第1学年は、目標値からみると「知識・技能」は6.1ポイント下回り、「思考・判断・表現」は3.2ポイント下回っている。</p> <p>○第2学年は、目標値からみると「知識・技能」は4.9ポイント下回り、「思考・判断・表現」は2.2ポイント下回っている。</p> <p>○第3学年は、目標値からみると「知識・技能」は3.1ポイント下回り、「思考・判断・表現」は6.4ポイント下回っている。</p>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1学年：既習事項の復習とグラフや表などの資料の読み取りに力を入れ、「知識・技能」の向上を

図る。

2 学年：地理的分野の学習の理解度を高めるために、地図や資料の読み取りを授業の中に多く取り入れ、基礎基本の徹底を図る。また既習事項の復習に力を入れる。

3 学年：グラフや表の読み取りと諸資料を使用した作業を取り入れた授業改善に力を入れ、「思考・判断・表現」の向上を図る。また、歴史的分野の理解度を高めるために、今後の授業で既習事項の復習を取り入れ、歴史の大きな流れを理解させる。

### （ 社 会 ） 科の授業改善策

- ・全学年の授業を通して、I C T機器を活用したり、模型や地図などの資料を効果的に提示したりすることで、生徒の意欲・関心を高められるように工夫する。各分野における重点項目は以下の通りである。
- ・地理：小テストや発問を通して、既習事項の復習をくり返し行い、基礎・基本の徹底を図る。地図やグラフなど様々な資料を活用して、読み取ったことを自分の言葉でまとめ、発表する場面を増やし、世界の諸地域の特色を多角的・多面的に捉えるための授業を実践する。また、諸地域の気候、地形、産業、文化、歴史の関連を理解できるように、授業展開を工夫する。
- ・歴史：小テストや発問を通して、既習事項の復習をくり返し行い、基礎・基本の徹底を図る。また、各時代の特色を捉え、前後の時代との比較を行い、それぞれの時代との違いや、つながりを理解させることで、歴史のおおまかな流れを捉えるための授業を実践する。
- ・公民：日本国憲法の条文を確認しながら、生徒たちに身近な事柄との関連を理解させることで、「主体的に学習に取り組む態度」を高める。また、既習事項の復習を授業内でくり返し行うことで、基礎・基本の徹底を図る。